

小学5年1組 外国語活動学習指導案

指導者 喜多川昭博 福島 歩惟 片寄メーガン

レストランにおける店員と客とのやり取りという限定された状況を設定して個々の考えを検討し合うという展開を構想したことは、相手に対して、表情や身ぶり手ぶりなど、より相手に伝わるような表現を用いたコミュニケーションへと高め合うことに有効であったか。

1 単元名 Welcome to 5-1's happy restaurant! ～コミュニケーションを楽しもう～

2 授業の構想

(1) 本学級においては、1学期より英語に慣れ親しみながらコミュニケーションを楽しむことを大切に考え、外国語活動の実践を重ねてきた。以下に示すのは、1学期に行った「プレゼント交換をしよう」の授業後のふりかえりである。

話しているうちにどんどんおもしろくなって、最初はやりたくないと思っていたけど、最後までとても楽しかったのでよかったです。特に、僕が笑うと相手も笑うので、そこが楽しかったです。

この実践においては、学年全体の幅広い対象からクラス内の友だちへ、そして男女相互というふうに次第に相手を絞っていきながらプレゼントを交換し合った。この子どもは、初めなかなか積極的にかかわることができなかったが、自分のかかわり方を工夫したり、相手の反応に注目したりしながら取り組むことで、楽しみながらかかわることができるようになった。

本学級の子どもたちは、上記のような相手とのコミュニケーションをとる動的な活動に対して非常に積極的に取り組む。「ジェスチャーゲームをしよう」という単元の際には、グループごとに決められた単語（水族館、動物園など）をグループでジェスチャーをすることによって伝えたのであるが、細部にわたってグループで相談し、工夫した動きを入れながらコミュニケーションを楽しむことのできた活動となった。しかし、自分はこれを伝えたい、という意欲や内容の工夫があっても、いざ相手に向かったときに、いかにして伝えるとよいかというコミュニケーションをしていくことは、教師側の手立てが必要な段階である。特に、上記のプレゼント交換の活動では相手を絞ったからこそ相手意識の高まりが見られたのであり、相手を特に設定しないと自分の好きなものという視点でプレゼントを選ぶ子どもや、自分が普段からよく話す人という視点で相手とかかわる子どもが多くいた。この実態から、コミュニケーションをとっていく上で、相手意識をもって自ら伝えようとする態度を育てたいと考える。そこで、動的な活動に意欲的な実態をふまえ、子どもたちが相手へ伝えようとする意欲を高めたいような場を設定してコミュニケーションを行うことが望ましいと考えられる。そうした限定された場の中で相手にしっかりと伝えるための工夫を考えるような学習を展開することで、コミュニケーションの質を高めていくことが期待できる。

(2) 以上の実態をふまえ、単元のねらいを、相手に尋ねる際の表現を知るとともに身振り手振りや表情など相手に対して気持ちよく伝わるようなコミュニケーションの仕方を考えて、実践しようとする態度を育てることとした。本単元においては、上記のねらいを達成するために「レストラン」という場を設定して、そこでの店員と客とのやり取りを行う。お互いのやり取りが限定的な表現になる上、お客さんが喜ぶようなやり取り、という上記のねらいを達成するための場を設定しやすいことが意図である。本学級は5年生であり、外国語活動がスタートした学年である。英語表現に加えてコミュニケーションの質を高めていくというねらいをもつ場合は、子どもたちにとって負担にならずにねらいに迫っていきけるような配慮が必要である。だからこそ表現が必然的に限定されるレストランとした。この活動は、表現を使いながらコミュニケーションの在り方の工夫まで考えるという点から考えて、1学期に実践したプレゼント交換の活動の発展として位置づけられる。また、6年生で実施する「買い物しよう」の活動

において、英語での表現の幅がさらに広がる中で相手意識をしっかりともったコミュニケーションをとっていき際に活用されることへとつなげていくことも意図している。すなわち、小学校段階においてコミュニケーションを意識し始める段階での単元として位置づけられる。

(3) 本単元は4時間の構成とした。単元を構成するにあたり、シナリオに慣れることと、相手意識をもって伝えること、というステップをふむことでねらいに迫っていけるようにした。レストランにおけるシナリオに子どもが慣れるのが第1次である。日本語でレストランでのやり取りを想起した上で英語での表現を知り、声に出すことやゲームで繰り返し練習していく。英語でのやり取り、つまりシナリオは、以下の通りである。

店員：Hello.Welcome to our “happy restaurant”!

客：Hello.

店員：What would you like?

客：○○ please.

店員：All right.

この時のレストランの設定として、自分たちが開いている日本のレストランであり、そこに外国の人がやってきたとする。日本の、とすることで自分たちができる限り英語を使うことにとどめられ、表現に無理が生じないようにする。また、外国の人が来た、ということで英語を使う場面をつくる。こうした場の設定は教師の実演などによって、子どもたちと楽しく分かち合えるようにしたい。また、「happy restaurant」というのはお客さんに楽しんでもらえるようなレストランのことであり、これを自分たちでつくるレストランで大切にすめあてとしていきたい。

第2次では、実際に店員と客とに分かれて表現のやり取りをする。このときに店員の客への接し方に重点をおいて、コミュニケーションのあり方を考える視点を絞りたい。展開としては、まず、実際に表現を使ってみることで設定に慣れるとともに教師側では子どもたちの状態をとらえていく。ここまでが第2次における第1時であり、第2時においては第1時で相手のことを考えたコミュニケーションを取ろうとしていたペアをモデルにして、よさを考え合う場を設けたうえで練習し、第3時で発表をする。なお、こうした表現のやり取りをするのは3名のグループで行う。店員役、客役2人でそれぞれの役を交代していく。客を2人にしたのは、練習中に客観的に見たり聞いたりできる役割を1人兼ねることができるようになることで、自分たちの取り組みをふりかえることができるようにするためである。第1時における子どもをとらえる視点としては、第1次において全体で共有した表現を、より相手を意識しながら伝えるために動きを加えていたり、表情に気を配ったりするなど、コミュニケーションをとっていくための工夫をしているかどうかである。このような子どものよさが広がったり、さらに改善されたりすることを願って設定するのが、本単元における学び合いである。この学び合いにおいては、あるペアの取り組みをもとに、よい点や改善点を話し合う。出された考えについては、その時の互いの気持ちを考えるように投げかけるなど、その価値を全体で共有できるようにする。また、動きをもとに話し合うことから、子どもたちの出す表現は不十分であったり、抽象的であったりすることが考えられる。教師はそれを適切な表現に言い換えたり、子どもが言おうとしていることを掘り下げて、全体に共有できるようにしたりすることによって、コミュニケーションをとるときによさが広がっていくように、はたらきかけていきたい。このはたらきかけがより有効なものになるために、担任と外国語活動専科、ALTで第2次第1時の子どもたちの取り組みをとらえることに重点をおく。担任がいることで普段の子どもたちの様子とのかかわりで子どもをとらえることができ、外国語活動専科とALTはコミュニケーションのよさを中心にとらえていきたい。そのとらえを、次の時間の学び合いに生かせるようにする。

評価をする際には、子どもたちの取り組みをもとにA～Cの基準に照らして行う。数値によるものではなく、子どもたちの何がよくて何が不十分なのかを具体的に挙げて、それを次の時間の取り組みに生かしていけるようにする。先述の第2次における過程が、本単元において評価を次の展開に生かす上でもっとも重要なポイントであろう。

以上のことから、本時は子どもたちが学び合いによってコミュニケーションの質を高めていくことを願う第2次第2時に設定した。あるグループの取り組みをもとに、表現をし合う上でよい点と、改善点という視点から互いの考えを出し合っていく。こうして考えを出し合い、全体で共有する場をつくることで互いのよさを取り入れながら、よりよいコミュニケーションを考え、実践していくような子どもたちを育てる場にしていきたい。学び合いが有効な場になるように、板書をして視覚的な支援をする。また、子どもたちが出したより相手が気持ちよくなるような伝え方について、その意図やお互いの気持ちを考えるなどして、伝え方のもつ価値を共有できるようにする。また、子どもたちのことばを掘り下げたり言い換えたりすることによって、一人ひとりの考えが具体的に広がっていくようにはたらきかけていきたい。

3 展開計画（全4時間 本時3／4）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	5-1 レストランのシナリオを知ろう。	1	・食べ物やレストランで店員や客が使う表現を知り、練習する。 Activity1 5-1 レストランのシナリオを知ろう。 Activity2 5-1 レストランで使う表現に慣れよう。
2	店員も客もハッピーになれる5-1 レストランをつくろう。	2	・グループごとにレストランを開き（練習1）、店員と客に分かれて実際に表現を使う。 Activity1 5-1 レストランを開こう（練習1）。
		③	・店員と客のやり取りから、相手に対して意識していることやこれから意識していくとよいことを考え、再度グループごとにレストランを開く（練習2）。 Activity1 5-1 レストランのある店員と客のやり取りを見てみよう。 Activity2 5-1 レストランを開こう（練習2）。 ◇店員と客が互いに満足するためには、具体的にどんなことを意識しながらかかわるとよいか、相手意識をもちながら学級で考えを出し合うことで、一人ひとりが自分の考えをもっている。
		4	・前時までに考えてきた相手意識を大切にしながら、5-1 レストランを開く。 Activity1 5-1 レストランをみんなの前で開こう（本番）。

4 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
2	③	◇店員も客も満足するために、相手に伝える時に意識するとよいことを考え、動きに表す。	店員も客も満足するレストランをつくるために、相手に伝える時に意識するとよいことを具体的に考えている。	発言 観察 ワークシート	店員も客も満足するため、相手の立場を考えながら、どんなことを意識すると良いか具体的に考え、その後の活動で動きに表れている。	店員も客も満足するため、どんなことを意識すると良いか具体的に考え、自分の意見をもっている。	相手への意識はないが、店員と客による英語での表現のやり取りができています。

5 本時の学習

(1) ねらい

店員も客も満足するレストランをつくるために、相手に対してどんなことを意識するとより良いコミュニケーションにつながるか意見を交換し合うことで、相手意識をもちながら、具体的に表情やジェスチャーなど、相手との関係を円滑にするコミュニケーションの方法を考えることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのたらしきかけ)
1. あいさつをして、ウォーミングアップをする。 ・ Let's sing. ♪BINGO♪ ・ Let's chant. 食べ物やレストランで使う表現でチャンツ 2. 前時の学習をふりかえり、本時のめあてを確認する。	・ 元気よく歌い、活動の雰囲気をつくる。 ・ リズムに合わせてたり速さを変えたりして、本単元で取り上げる表現を、楽しみながら声に出し、慣れ親しめるようにする。
お客様がハッピーになれる5-1レストランをつくるために、 店員としてお客さんにどのように伝えていけばよいか、具体的な方法を考えよう！	
3. 5-1レストランのある店員と客のやり取りを見て、相手への伝え方としてよい点や改善点を考える。 ○相手意識の高い伝え方を具体的に考えられている子 → ○考えてはいるが、気づきが深まっていない子 → ○なかなか思い浮かばない子 → 4. 個人で考えたことを出し合い、店員も客もハッピーになれる具体的な方法を学級全体で考える。 ・ 笑顔で、ゆっくりと話す。 ・ 聞き返す。 ・ あいづちをうつ。 ・ ジェスチャーを使う。 5. 5-1レストランを開く。(練習2) 6. 本時をふりかえる。 ・ 前は黒板を見ながら話してしまっただけ、今回は相手の目を見て話してみた。すると、お客さん役の○○さんが、とても気持ちがよくなったと伝えてくれてうれしい。 ・ 友だちが教えてくれた方法をやってみたら、お客さんが笑顔になってくれた。 ・ 今日できなかった方法を、本番でやってみよう。	・ 客観的に見ることで、新しい方法や、さらにもっと良くなりそうな方法を見つけることができるようにする。 ・ 相手の反応についてたずね、相手意識をもって考えられていることを認める。 ・ 3のやり取りの中で良かったことや、相手に対して配慮するとよいことはないか尋ね、さらに気づいていけるように声をかける。 ・ 相手にどうかかわってもらったら気持ちよくなるか考え、3のやり取りの中であてはまる部分があったかどうか一緒に考える。 ◎各自が出し合った方法は何のためにするのか、また、された相手はどのような気持ちになるか投げかけることで、お互いに出し合った考えをもとに、コミュニケーションの質を高めていけるようにする。 ・ 4で出した方法を実際に試してみるように声をかける。 ・ 相手のことを意識する方法がたくさん見つかったことを認め、次時への意欲づけをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価の観点</p> <p style="text-align: center;">(言語や文化に関する気づき・コミュニケーションの能力)</p> <p>店員も客も満足するレストランをつくるために、相手に対して意識するとよいことを具体的に考えている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発言・観察・ワークシート】</p> <p>支援</p> <p>今までの経験から、相手とかかわる際どんなかわりをしてもらえると気持ちがよくなったか思い出し、そのエピソードから具体的な方法を一緒に見つけていく。</p> </div>